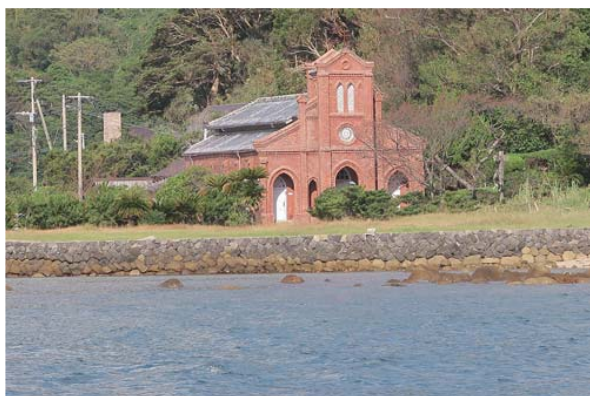


千刈狸の呟き

新型コロナウイルス感染症で、ここ1年、旅行ができず、回想しました。

私ども夫婦にとって初めての巡礼は、大村藩の外海潜伏キリシタンの五島移住と逆方向の巡礼の旅になりました。

2018年10月4日：7時10分、台風の影響で、福岡空港から五島への乗り継ぎが不確定なまま、秋田空港を出発しました。福岡空港に着き、五島への臨時便が運行されることを知り、安堵しました。13時35分、五島空港に無事到着。空港から福江市内への道の途中の高台から、「福江大火災」での街が全焼にも拘わらず、残った福江教会を臨みながら、説明を受けました。荷物を宿泊ホテルに置いて、巡礼がスタートしました。「堂崎教会」はレンガ造りの教会、観光地としても有名で、一般観光客も見受けられました。内部はキリシタン資料館となっており、日本二十六聖人の一人、ヨハネ五島の資料（庭には殉教像があります）など歴史を伝えられています。多くの神父が誕生しています。スタンプ帳になっている「巡礼の道」という写真集を渡され、巡礼の記録が始まりました。



【堂崎教会】

「半泊教会」は狭い山道を抜けて海岸に面したところにあり、2名の神父が誕生した教会ですが、今は老夫婦2人で守られています。手入れが行き届いている聖堂、庭に咲く一輪の赤い花が印象的でした。「宮原教会」は民家と見間違いそうな巡礼教会。「浦頭教会」は雨の中、夕方5時に着き、マリア様の月、ロザリオの祈りを近辺の信者さんと唱え、ミサとなりました。教会と道を挟んである、「コンタツ堂」は、神父のお母様が開いておられ、

～ 五島巡礼を思い出して～

回想狸

聖具などを提供されております。おいしいお饅頭をいただきました。

10月5日：8時にホテルを出発。「貝津教会」は台風に向けて窓は板で覆われ、美しいステンドグラスを聖堂内から鑑賞しました。「嵯峨島教会」には、台風の影響が少なくて少ない中、漁船で渡りました。人口100名、子供4名と小さな島となっていますが、2人の神父が誕生しています。キリスト信徒、仏教信徒と関係なく、島民の方にお世話になりました。

「三井楽教会」は渚の元キリシタン墓地（周辺はポスターの撮影場所、かんころ餅を干す場所があります）を経由して着きました。ステンドグラスとフレスコ画が素晴らしい。遣唐使のゆかりの地でもあります。BIG WAVE CAF?というしゃれたフランス料理店で昼食。「打折教会」から、真っ白な「水ノ浦教会」には、敷地内には山に面した庭園があります。「楠原牢屋跡」を経て、レンガ造りの「楠原教会」には、台風に向けての多忙な中、聖堂内に入ることができました。狭い山道の奥、簡素な「繁敷教会」は、一人の信徒さんによって守られています。台風の風雨が強くなったところ、「井持浦教会」に着きました。4名の神父が誕生しています。ミサで、「自分の召命」として「与えられた使命」を果たすこと、「行きなさい。私はいつもあなたと共にいる。」という説教が残りました。「ルルドの泉」があります。暴風雨となり、おおしけの海を見ながら、「玉之浦教会」にちょっと寄り、ホテルに無事到着しました。

10月6日：台風25号のため、ホテル待機。自由時間の午前中、五島市内を散策、緑豊かな福江城址の中に五島高校が印象的でした。午後1時より福江教会で、主任神父より講話。五島の信仰は、4層構造からなる、1層は1566年福江へ信徒移住から1614年の禁教まで、2層は禁教から楠原、堂崎地区への移住、3層はパリミッションでの信徒発見から1927年、日本人発教早坂師誕生、4層は1927年から現代：世界遺産としての黒島、牢獄から出た信徒が建てた旧五輪教会、牢屋のさく：畳1畳に16人（内容が不確かです）。その後、ミサで「逃げるのではなく、命を捧げた」殉教者を見習い、弱い私を助けて下さい、信仰、愛を強め

て下さいとの祈りの大切さを考えました。武家屋敷、六角井と周り、有志で荒川温泉へ、熱めだが、体は温まる、いい温泉でした。

10月7日：午前9時、福江港を海上タクシーで出発。久賀島の「浜脇教会」から「牢屋の窄」に着きました。6坪に200人が収容されたこと、13歳の子供がウジ虫にお腹を噛みつかれ亡くなったことなどの衝撃を受けました。「旧五輪教会堂」（世界遺産-久賀島の集落）と並んで、「新五輪教会」があります。ミサの中で、血を流して祖先が勝ち得た、喜び、平和を実感して、今を生きられる自分の素晴らしさ、信仰の素晴らしさを伝えることを考えました。祭壇側からの海の眺め、潮騒に心が洗われる思いでした。旧五輪教会を現地のガイドさんの説明で見学。



【旧五輪教会】

旧五輪教会堂を守っている信者さん宅で昼食、朝の漁での新鮮なお刺身は美味でした。船で奈留島の泊港へ。高床式、窓枠がブルー、手書きのステンドグラスが印象的な「江上教会」（世界遺産-奈留島の江上集落）、白い尖頭の「奈留教会」、道から眺めた「南越教会跡」。泊港から上五島の土井ノ浦港へ。「土井ノ浦教会」、「有福教会」、「大平教会」と周り、19時にホテル着。

10月8日：午前8時に、ホテルを出発。「龍馬ゆかりの地」、続いて「頭ヶ島（かしらがしま）教会」（世界遺産-頭ヶ島の集落）へ。信徒が石を積み上げて造った教会、一部の石に刻まれた名前などを確認し、信徒の信心が窺えました。内部に樅の装飾が美しい。「丸尾教会」、その後「青砂ヶ浦教会」でミサが行われました。細い島を北上し、船で野崎島に渡ります。1971年の住民が去り、管理する人のみが居住しています。「旧野首教会」（世界遺産-野崎島の集落跡）は港から廃墟の間の道を、野生鹿を見つけながら30分ほどで着きます。

田畑の中腹に立つ教会は外観、古びた聖堂内部から、苦しい生活の中で途絶させない長い信仰が伝わるようでした。教会からの海の眺めもすばらしいものでした。船で小値賀島へ渡り、「教小値賀会」、再び、船で上五島に戻り、アンドレの像が立つ「米山教会」、「仲知教会」：多くの神父が誕生しています（有名な前田万葉枢機卿、白浜広島司教、島本要大司教）。島本要大司教が、ステンドグラスには、教会建設費を提供した信者の漁師さんとともに描かれています。つばきで有名な「赤波江教会」、「江袋教会」、「小瀬良教会」、「大水教会」、「曾根教会」、「冷水教会」から宿へ。

10月9日：午前8時、宿を出発。カトリックセンターの「青方教会」、「大曾教会」、「鯛の浦教会」：旧教会のレンガの一部は被爆した浦上天主堂のレンガ、ためし切りの殉教地、「ルルドの泉」の「船隠教会」、建設貢献した漁師団「十字軍」、「岬のマリア」の「浜串教会」、「福見教会」、「高井旅教会」を経て「桐教会」での巡礼最後のミサが行われました。奈良尾港から海上タクシーで、福江港へ。昼食は和風レストラン「望月」で五島牛を味わいました。五島の教会51教会のうち、台風のため7教会を除き、巡礼しました。15時40分、福江空港、福岡空港、羽田空港、秋田空港と無事に帰宅しました。今にも朽ち果てようとしている教会、今後将来も存在しうる強固な石造り、レンガ造りの教会と様々な形の教会、大部分は巡回教会（常駐の神父が不在）という現状です。生花が飾られ、きちんと清掃され、守られている教会からは、苦しい境遇の中で信仰を途絶えず伝えた祖先の信仰を尊重し、引継いでいる姿が強く感じられ、感嘆、感銘を受け、信仰者の姿を見ました。長崎のカトリックの歴史をふり返られた今回の機会は、日本人のカトリック信仰の原点は長崎にあることを実感する巡礼でした。